

公表

事業所における自己評価総括表（児童発達支援・放課後等デイサービス共通）

○事業所名	ティノシース			
○保護者評価実施期間	令和8年 5月 11日		～	令和8年 5月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	22名	(回答者数)	17名
○従業者評価実施期間	令和8年 5月 19日		～	令和8年 6月 5日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	11名	(回答者数)	9名
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 7月 3日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	併営する訪問看護ステーションと連携し、医療的ケアの必要性が高い子どもの受け入れが可能となっている。また、理学療法士などの専門職と連携し、座位保持の調整をはじめ、個々の状態に応じた支援を行っている。家庭・訪問看護・事業所間で情報共有を行い、安心して利用できる環境がある。	訪問看護担当者を通じて、医療的ケアをはじめとする支援に不可欠な情報を、保護者との間で共有できるようにしている。保護者からの情報も取り入れ、一人ひとりの状態に応じた支援につなげている。	訪問看護に帯同して訪問し、保護者との意見交換や相談支援を継続し行っていく。また、職員研修や緊急時対応の確認を行い、より安全な支援体制を整える。看護師以外の支援担当者が喀痰吸引等をできるよう随時研修を行っている。
2	嘱託医が事業所の近くで開業しており、利用中の子どもに体調不良等ある場合はすぐ駆けつけてもらえる体制となっている。	嘱託医に感染症対策等医療に関連した研修を行っている。	嘱託医との間で、こどもの医療情報の共有を一層強化する。
3	アットホームである。	アットホームな雰囲気ですぐ相談しやすい関係づくりを大切にしている。	家庭との連携をさらに深め、安心して利用できる温かい雰囲気づくりを継続する。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	時間が短い	利用時間が短いため、十分な支援時間の確保が課題となっている。一方で、医療的ケアの必要性が高い児童が多く、長時間の利用は子どもの体力面や体調への負担も考慮する必要がある。	現時点で利用時間の延長は予定していないが、子どもの体調や負担に配慮しながら、利用時間や支援内容について継続的に検討を行い、一人ひとりに適した支援の充実を図っていく。
2	外遊びの機会が少ない。	医療的ケアや体調管理、天候の影響により、屋外活動の機会が限られている。	子どもの体調や安全面に配慮しながら、近隣の公園や図書館、地域施設への外出を計画的に取り入れ、外出や地域交流の機会を増やしていく。
3	イベントが少ない	医療的ケアや利用時間の制約があり、イベントや保護者同士が交流できる機会が限られている。	月齢の小さいお子様を対象とした母子通所の実施に向けて検討を進め、親子で参加できる活動や保護者同士が交流できる機会を設けられるよう取り組んでいく。